

## 麦類の赤かび病発生に注意しましょう！

麦類の赤かび病は、子実収量や品質を低下させる重要病害です（写真1）。本病菌は、人畜に有害なかび毒（DON、NIV等）を産生するため、農産物検査規格では、食用麦の赤かび粒混入限度が全麦種で0.0%以下となっています。このため、予防的に防除を行い、発生防止に努めることが重要です。



写真1 赤かび病(二条大麦)

本年産の麦の生育は、11月中旬までに播種した麦の生育が平年より早まっている一方、11月中旬以降に播種した麦は、播種後の乾燥と気温の低下により、出芽や出芽後の生育が遅れています。このように、播種時期の違いによる生育差が大きく、**同じ地域でもほ場ごとに生育のばらつき**が見られますので、**防除に際しても注意が必要**です。ほ場ごとに出穂や開花の状況をよく観察し、**ほ場・麦種ごとの防除適期**に留意し、赤かび病防除を行きましょう。

### 【防除対策】

- ・ 麦種や生育状況に合わせた適期防除が重要である。  
**六条大麦や小麦は2回防除が基本となる（表1）。**
- ・ **薬剤感受性の低下を防ぐため、異なるFRACコードの薬剤をローテーション散布する（表2・3）。**
- ・ **不稔粒が発生したほ場は、赤かび病多発のおそれがあるため、追加防除を実施する。**

表1 麦種ごとの防除適期

麦種	防除適期	多発のおそれがある場合 (不稔粒発生や登熟期連続降雨など)
二条大麦	穂揃い期7～10日後（葯殻抽出期※1）	1回目の7～10日後に2回目散布
六条大麦	開花始め※2と1回目の10日後の2回散布	3回目散布
小麦	開花始め※2と1回目の20日後の2回散布	3回目散布

※1：穎の先端から葯殻(受粉を終えた葯の殻)が押し出されてくる時期

※2：抽出した葯を初めて認めた日



写真2 【二条大麦】  
穂揃い期7～10日後  
(葯殻抽出期)



写真3 【六条大麦】  
開花始め



写真4 【小麦】  
開花始め

※矢印の黒色部分が抽出した葯殻

表2 麦類の赤かび病に登録のある主な薬剤（平成31(2019)年2月28日現在）

薬剤名	作物名	希釈倍数 (散布液量)	収穫前日数/ 本剤の使用回数	薬剤系統名	FRAC コード
シルバキュアフロ アブル	大麦	2,000倍 (60~150L/10a)	14日前まで/2回以内	E B I	3
	小麦	2,000倍 (60~150L/10a)	7日前まで/2回以内		
ワークアップフロ アブル	大麦	2,000倍 (60~150L/10a)	7日前まで/3回以内		
	麦類 (大麦を除く)				
チルト乳剤25	大麦	1,000~2,000倍 (60~150L/10a)	21日前まで/1回		
	小麦	1,000~2,000倍 (60~150L/10a)	3日前まで/3回以内		
トップジンMゾル	麦類 (小麦を除く)	1,500倍 (60~150L/10a)	14日前まで/3回以内 (出穂期以降は1回以内)	ベンズイ ミダゾ ール	1
	小麦	1,000~1,500倍 (60~150L/10a)	14日前まで/3回以内 (出穂期以降は2回以内)		
トップジンM水和剤	麦類 (小麦を除く)	1,000~1,500倍 (60~150L/10a)	30日前まで/3回以内 (出穂期以降は1回以内)		
	小麦	1,000~1,500倍 (60~150L/10a)	14日前まで/3回以内 (出穂期以降は2回以内)		
ストロビーフロ アブル	麦類 (小麦を除く)	2,000~3,000倍 (60~150L/10a)	14日前まで/3回以内	ストロビ ルリン	11
	小麦				

注1) 必ず農薬容器のラベルをよく読み、使用方法・使用上の注意事項を守る。

注2) FRACコードが同一のものは作用点が同じなので、連用を避ける。

表3 無人ヘリコプターによる散布の登録がある主な薬剤（平成31(2019)年2月28日現在）

薬剤名	作物名	希釈倍数 (散布液量)	収穫前日数/ 本剤の使用回数	薬剤系統名	FRAC コード
シルバキュアフロ アブル	大麦	16倍(0.8L/10a)	14日前まで/2回以内	E B I	3
	小麦	16倍(0.8L/10a)	7日前まで/2回以内		
ワークアップフロ アブル	大麦	10~16倍(0.8L/10a)	7日前まで/3回以内		
	麦類 (大麦を除く)				
チルト乳剤25	大麦	8倍(800mL/10a)	21日前まで/1回		
	小麦	8倍(800mL/10a)	7日前まで/3回以内		
トップジンMゾル	麦類 (小麦を除く)	8倍(0.8L/10a)	21日前まで/3回以内 (出穂期以降は1回以内)	ベンズイミダ ゾール	1
	小麦	8倍(0.8L/10a)	14日前まで/3回以内 (出穂期以降は2回以内)		

注1) 必ず農薬容器のラベルをよく読み、使用方法・使用上の注意事項を守る。

注2) FRACコードが同一のものは作用点が同じなので、連用を避ける。

詳細は、農業環境指導センター（TEL 028-626-3086）までお問合せ下さい。

病害虫情報発表のお知らせは「栃木県農政部ツイッター(@tochigi\_nousei)」、農業環境指導センターホームページ (<http://www.jpnpn.ne.jp/tochigi/index.html>) でもご覧になれます。